

明治八年  
大阪  
錦商  
新聞  
第十九号

並木  
みよ子



きもく是ハ東京まで去年のくまの  
事をり。女心の浅州馬道猿智  
恵たくむ猿寺地内。二人りくしハ  
寡婦と下女。女主人ハ下女ハ  
主とさせて。他所を歸りて家と  
見まハ燈火消して。下女ハ  
柱小まをりて。簞笥ハあけて品物も  
取らして有田。やがて女主人ハ繩と解き  
委細と問へバ下女ハ盗賊遣入てまくと。震ひを多言を。女主人ハ驚の毒。思ひ居り内  
程もあく。カ盗賊あ。と。聞よりす。下女ハ井戸へ身を。死。と。あ。聞  
けハ盗賊と。合組せ。好討と。ま。こ。き時。正情堂九化記  
身と投。井戸も。泥。下女の欲。中。

あ己文板

60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9

